

第 2 期長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略

第 2 期長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、新型コロナウイルス感染症の影響による社会の変化を踏まえ、企業誘致や若者の流入・定着を促進していきます。また、ポストコロナを見据え、長岡版イノベーション（AI、IoT、ロボット、5G、発酵・醸造など）を加速し、産業活性化の取り組みをはじめ、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでまいります。

第2期長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（イノベーションの視点）

地方創生に向けた戦略

第2期長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「長岡版イノベーションの推進」を、戦略推進の共通の視点とし、この視点に基づく6つの「戦略」（若者定着、子育て、教育、働く、交流・連携、安全安心）から様々な施策を実施し、人口減少の歯止めを着実に進めていきます。

長岡版イノベーションの基本的な考え方

変化の波を的確にとらえ、従前にとらわれず市民生活の向上と産業の活性化を実現します。大きな変化をチャンスととらえ、市政のあらゆる分野に新たな発想や先端技術を取り入れ、人材育成と未来への投資を行う「新しい米百俵」の実現に向けて、全力で取り組みます。

長岡版イノベーションの目的・方針

産業の振興・企業の促進

- ・新たな産業クラスタを形成し、学生や地場産業との連携を促進
- ・学生や若者が起業しやすい環境の創出
- ・長岡で最先端技術に触れる機会の創出
- ・長岡における新しい産業の動きの可視化

人材の育成

- ・「楽しむ」から「学ぶ」、そして「仕事」につながるコンテンツの提供
- ・長岡の未来を支える産業人材の育成

市民生活の向上

- ・デジタル化による市民生活の利便性向上
- ・新しいツールを活用し個々の市民に最適な情報・サービスの提供
- ・新しい技術や考え方を取り入れた行政課題の解決

行政事務の効率化

- ・市民目線に立ち様々なノウハウを活用した、行政事務の徹底的な見直し
- ・市が持つデータを活用した市民サービスの構築
- ・事務の自動化による人的資源・財源の有効活用

第2期長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（6つの戦略）

戦略1 若者定着

若者の地元定着やU・Iターンを促進するため、若者自らが魅力を生み出すまちづくりを進めます。

戦略2 子育て

子育て環境を充実させ、子どもや家庭に寄り添った切れ目のない支援をすることで、長岡で子どもを産み育てたいと思うまちづくりを進めます。

戦略3 教育

米百俵の精神で、質の高い教育と教育環境の整備を進め、長岡に住み続けたい人、長岡に帰って来たい人、未来の長岡を背負って立つ人を育てます。

戦略4 働く

若者が魅力を感じて働きたくなるように、頑張る地元企業・地場産業の支援に加え、起業・創業や企業誘致を産官学金の総合力で推進します。

戦略5 交流・連携

豊かな地域資源をさらに磨き上げ、広く情報発信することで「長岡ファン」を増やすとともに、広域連携や、国際交流により、交流人口・関係人口を増やします。

戦略6 安全安心

将来にわたって住み続けたいと思えるような、誰もが充実し、安全で安心して暮らすことのできる、快適なまちづくりを進めます。

第2期総合戦略 数値目標の評価①

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、本来想定していた事業を実施できず、目標を大きく下回った指標もあった。

戦略	数値目標	当初値	R2実績値	目標値
戦略1	転出者超過率	114.5%	114.6%	105%
戦略1	市内4大学・1高専・15専門学校の市内就職率	20.7%	22.0%	25%
戦略2	子育ての環境や支援への満足度※	78.5%	—	85%
戦略3	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合※	小学校 62.1% 中学校 47.9%	—	小学校 70% 中学校 55%
戦略4	起業支援センターながおかでの支援により起業した件数	30件/年	40件/年	41件/年
戦略4	地域未来投資促進法に基づく地域経済牽引事業計画承認件数	17件	25件	40件
戦略4	担い手農家の農地利用割合	64.5%	69%	70%
戦略5	主要集客地点入込数	7,360,000人	4,060,000人	8,360,000人
戦略5	JR長岡駅乗車数	2,120,000人	840,000人	2,200,000人
戦略5	市内5インターチェンジ利用台数※	12,400,000人	—	13,120,000人
戦略6	フェニックスネットの参加機関数及び登録者数	181機関 4,705人	183機関 6,387人	230機関 10,000人

※新型コロナウイルス感染症の影響等により、調査未実施のため実績値なし

第2期総合戦略 数値目標の評価②

戦略	数値目標	課題と原因分析	今後の対応
戦略1	転出者超過率	<p>人口減少対策は効果が現れるまで時間を要することから、継続した取り組みが必要と考えます。また、新型コロナウイルス拡大の影響による地方分散の動きがあり、今後効果が現れてくるものと推測します。</p>	<p>引き続き4大学1高専15専門学校との連携事業や学び・仕事・生活等の長岡の魅力発信・UIターン促進等により市内外の若者定着に向けた取り組みを進めていきます。</p>
戦略1	市内4大学・1高専・15専門学校の市内就職率	<p>実績値が上がった要因として、主に市内の専門学校で、新型コロナウイルス拡大の影響による市外就職控えにより市内就職率が上がり、全体の数値を押し上げたことが考えられます。市内大学・高専では、まだ県外企業への就職を目指す傾向があります。</p>	<p>引き続き、教育機関や産業界と連携し、新型コロナウイルス拡大の影響による地方分散の動きを捉えた政策や、長岡市で暮らす魅力を発信し、効果を検証しながら、若者の地元定着に資する取り組みを進めます。</p>
戦略2	子育ての環境や支援への満足度	<p>実績値については、令和5年度の「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」策定時に調査し評価を行います。</p>	<p>引き続き、長岡版ネウボラの推進や子育ての駅・児童クラブ等で保護者を支援し、子育て環境や支援への満足度を高める取り組みを進めていきます。</p>

第2期総合戦略 数値目標の評価③

戦略	数値目標	課題と原因分析	今後の対応
戦略3	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる児童生徒の割合	令和2年度は全国学力学習状況調査が中止となったため、評価することができませんでした。	令和3年度より全市立学校に導入予定の「コミュニティ・スクール」制度を活用し、これまで行ってきた地域協働活動をさらに発展向上させ、ふるさとを愛する心を育み、地域や社会のために自分なりの考えを持ち行動できる児童の育成を目指した取組を進めていきます。
戦略4	起業支援センターながおかでの支援により起業した件数	起業件数の実績値は、令和2年度の数値目標38件を達成しており、今後も順調に推移する見込みです。	引き続きCLIP長岡と連携しながら、起業に関するワンストップ相談、セミナーや講演会の開催等を通じて起業支援の取組を進めていきます。
戦略4	地域未来投資促進法に基づく地域経済牽引事業計画承認件数	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、企業活動の鈍化が見受けられるものの、承認件数は概ね順調に推移しており、特筆すべき課題は見当たりません。	引き続きウイルスの感染状況及び市場の動向等に注視しつつ、目標達成に向けた企業支援の取組を進めていきます。
戦略4	担い手農家の農地利用割合	担い手農家の高齢化による担い手不足により、今後担い手農家への農地の集積・集約化が、思うように進まなくなる可能性があります。	普及センターやJAと連携し、新規就農者の育成を行い、人・農地プランの見直しと併せて地域内の農地の担い手農家への集積・集約化を進めていきます。

第2期総合戦略 数値目標の評価④

戦略	数値目標	課題と原因分析	今後の対応
戦略5	主要集客地点入込数	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、イベント等の中止が相次いだことや、移動制限や旅行控えの動きが生じたことなどにより、目標を大きく下回ったものと考えます。	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、引き続き長岡の豊かな地域資源の磨き上げや国内外への情報発信、近隣・関係市町村等との広域連携の積極的な推進、国際的な交流の充実など、交流人口・関係人口の増加に向けた取り組みを進めていきます。
戦略5	JR長岡駅乗車数	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、イベント等の中止が相次いだことや、移動制限や旅行控えの動きが生じたことなどにより、目標を大きく下回ったものと考えます。	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、引き続き長岡の豊かな地域資源の磨き上げや国内外への情報発信、近隣・関係市町村等との広域連携の積極的な推進、国際的な交流の充実など、交流人口・関係人口の増加に向けた取り組みを進めていきます。
戦略5	市内5インターチェンジ利用台数	令和2年度はデータ提供を受けることができなかったため、評価することができませんでした。	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、引き続き長岡の豊かな地域資源の磨き上げや国内外への情報発信、近隣・関係市町村等との広域連携の積極的な推進、国際的な交流の充実など、交流人口・関係人口の増加に向けた取り組みを進めていきます。

第2期総合戦略 数値目標の評価⑤

戦略	数値目標	課題と原因分析	今後の対応
戦略6	フェニックスネットの参加機関数	<p>参加していない医療機関や介護施設等に対する参加呼びかけが必要と考えます。参加機関の増加が登録者数の増加にもつながることから、今後は医療機関や介護施設等に対する働きかけにより一層力を入れる必要があります。</p>	<p>医師会、歯科医師会、薬剤師会と連携し、各団体の会員の参加を促すとともに、多職種勉強会や地域別多職種交流会等の機会を利用し、介護施設等への参加呼びかけを進めます。</p>
戦略6	フェニックスネットの登録者数	<p>引き続き市民への周知が必要と考えます。登録者数は順調に増加しており、PR動画の放映等による市民への周知やイベント等での出張受付を積極的に行ったことも増加の要因と考えます。</p>	<p>引き続き市政だよりやPR動画の放映による周知やイベント等での出張受付などに取り組むとともに、令和2年度に開始した電子による登録受付の周知にも力を入れ、全市民を対象に登録拡大を図ります。</p>

地方創生推進交付金①

事業名

「中越文化・観光産業支援機構による歴史資源・行政視察を活用した広域観光」

※地方創生推進交付金

「地方版総合戦略」に位置付けられ、地域再生法に基づき認定される地域再生計画に記載される地方公共団体の自主的・主体的な取組で、先導的なものを国が支援するもの。

中越文化・観光産業支援機構による歴史資源・行政視察を活用した広域観光

事業の概要

中越地域の12市町村、観光団体が連携して広域観光事業に取り組み、交流人口の増加を目指していくため、連携市町村の文化・観光資源をつないだ広域周遊ツアーを企画・実施するほか、連携市町村の文化・観光資源のプロモーションを実施する。個別事業の内容については、次項以降を参照。【事業期間：平成28年度～令和2年度】

重要業績評価指標（KPI）

指標：連携市町村への観光入込客数

	事業開始前	H28	H29	H30	R1	R2
目標		27,733,173人	28,261,421人	28,789,672人	29,487,119人	30,850,622人
実績	26,412,549人	26,998,447人	26,143,537人	27,509,542人	26,805,752人	15,434,762人

※R2の実績値は見込み

事業費及び交付金額（H28～R2）

総事業費：557,722,531円

交付金額：278,861,265円

中越文化・観光産業支援機構①

事業の概要

中越地域の市町村及び関係団体が連携し、地域の豊富な文化・観光資源を生かし、地域の新たな観光産業の振興及び雇用の確保につながる交流人口の拡大を図ることを目的として、平成28年5月に「中越文化・観光産業支援機構」※を設立。

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、広域観光連携事業として、構成市町村の文化・観光資源の県民向けプロモーションを行った。

※中越文化・観光産業支援機構 構成団体

長岡市、三条市、柏崎市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、魚沼市、南魚沼市、弥彦村、出雲崎町、津南町及び各市町村観光協会（事務局：長岡観光コンベンション協会、長岡市観光・交流部観光企画課）

事業の成果等

民放ローカル局の人気情報番組内のコーナーを活用して、毎週1自治体ずつ、全12回の放送を実施したことにより、地域の方々とリポーター役のタレントとの掛け合いを通じて、「人」を含めた観光情報を広く県民に発信することができた。

放送後に問い合わせや来訪者が増加した自治体もあるなど、認知拡大と入込客増加に寄与した。



▲番組の現地ロケの様子

事業の概要

長岡市及び周辺地域は、観光に資する文化・自然資源は豊富にあるが、観光誘客に必ずしも繋がっておらず、観光関連産業も、寺泊地域や一部の温泉地等に限定されている。このため、観光客を誘致する際、食事をする場所が無いか、若しくは極めて限定されている地域が少ない。

こうした状況に対応するため、東京で実績のあるビジネスコンサルタント会社及びその傘下のBBQ運営会社の参画を得て、初期投資が少なく事業性が見込みやすいBBQ事業を、文化資源豊富な与板地域でモデル的に実施し、地域事業者がそのノウハウを吸収することで、観光飲食産業の育成を図る。

令和2年度においては、観光飲食産業育成事業として、引き続き与板地域出身で日本人初のビール醸造家である中川清兵衛の名を冠した「与板★中川清兵衛記念BBQビール園」を開設・運営する地域事業者に対して、ビール園の施設や設備の維持管理支援と利用者向けの交通支援を行った。

事業の成果等

新型コロナウイルス感染症の影響により営業面で大きく制約を受けたものの、令和2年度においても地域事業者によるビール園運営事業が継続された。

○営業期間：6月13日～11月1日
※開設時期は例年より2か月遅れ。また、営業は週末に限定。

○利用者数：2,643人
(前年度比▲3,931人、▲59.8%)



▲与板★中川清兵衛記念BBQビール園

歴史文化事業（地域の宝磨き上げ事業）

事業の概要

良寛・貞心尼、豪商、上杉謙信旗揚げの地をゆかりとした歴史文化資源を活用し、観光による外需から新たな産業化・雇用創出の好循環を実現し、人口減少に歯止めをかける。

- ①良寛・貞心尼とはちすば通り（和島地域の宝磨き上げ事業）
中学生との連携（遠足・書道教室）、はちすば通り周辺整備、パンフレット作成
- ②豪商の文化（与板地域の宝磨き上げ事業）
楽山苑の活用・保存・ガイド養成
- ③上杉謙信旗揚げの地（栃尾地域の宝磨き上げ事業）
「上杉謙信公旗揚げの地」伝承・PR、観光ガイドの養成



▲上杉謙信旗揚げの地

事業の成果等

- ①良寛さまが歩いたコース(与板～和島)を中学生89名が踏破し、良寛さまが見た風景を感じとっていた。また、書の大家である良寛さまの代表作「天上大風」を題材に良寛さまの気持ちを学んでもらうことができた。
はちすば通り周辺及び和島地域に多く残る石碑の碑文を解説するパンフレットを2,000部作成した。地域内外からの問い合わせが多くあり、歴史的価値のある冊子を作成することができた。
- ②楽山苑を活用した事業では、コロナ禍のためイベントを縮小しての実施であったが、与板の魅力を1つ知ることによって、他の与板の歴史に興味を持ってもらえることができた。また、ガイド養成事業として高校生向けに実施した「よいた検定」では課題を設けてまち歩きを行ったことで、合格率が昨年度の24%から58%へと大幅に向上した。
- ③コロナ禍での開催ではあったが、栃尾城跡までの登山道のグリーン作戦(昨年度比：約3割増)や登山(昨年度比：約5割増)を実施したことで、地域の宝「城山（栃尾城跡）」を地域住民に周知し、愛着を醸成することができた。
また、観光ガイドのスキルアップ講座を行い、会員14名のうち7割の方が受講し、技術力の向上が図られた。

地域観光事業（地域の宝磨き上げ事業）

事業の概要

自然（もみじ）、観光施設（交流拠点等）、イベント等を活用した地域観光資源を活用し、観光による外需から新たな産業化・雇用創出の好循環を実現し、人口減少に歯止めをかける。

①もみじ園とその周辺（越路地域の宝磨き上げ事業）

もみじ園で「もみじまつり」を開催

- ・ぼんぼりの設置（もみじまつり期間(10/31～11/23)）
- ・オープニングイベント（酒造り唄など）
- ・和楽器演奏会
- ・寄席

事業の成果等

コロナ禍での開催ではあったが、もみじまつり期間中の来園者は昨年度と比較し約1割減（R1：約90,000人⇒R2：約80,000人）ではあったが、来園者へは「もみじ園とその周辺」を憩いの場としてPRすることができた。

また、まつり期間中に実施した、イベント（和楽器演奏会、寄席など）においても、昨年度と比較し参加者が減少した。

新型コロナウイルス感染症対策及び新潟県新型コロナお知らせシステムを活用した中での開催ではあったが、大きな混乱や問題が生じることなく開催することができた。



▲もみじ園

地域観光事業（花火PR）

事業の概要

長岡花火を核に、長岡の魅力を全国・世界に発信する観光拠点として2020年のオープンを目指して、「ながおか花火館（仮称）」を整備する。

また、多様な地域資源の「情報発信機能」である花火シアター等において、長岡の魅力を発信する映像コンテンツの作成を行う。

道の駅ながおか花火館は、令和2年9月18日にオープンした。



▲道の駅ながおか花火館

事業の成果等

サイネージ用長岡観光PR映像を制作
（長岡まつり編、長岡の四季編、グルメ編、風景編）

長岡IC近くにある当施設は、観光・交流のゲートウェイ（玄関口）機能として、長岡花火映像のほか、観光PR映像を上映し、来館者に観光情報を発信することにより、市内各地への誘客促進を図る。

道の駅ながおか花火館 令和2年度入館者数（9月～3月）：836,785人



▲フードコート内のサイネージ

地域観光事業（米百俵まつり）

事業の概要

秋の収穫を祝い、長岡の教育の原点「米百俵の精神」を醸成し、次世代を担う子どもたちに、故郷「長岡」の素晴らしさを伝え、「自信」と「誇り」を育む場として開催する。

越後長岡時代行列では、数百名が時代衣装をつけ、行進・パフォーマンスを行うほか、米百俵神輿渡御、フリーマーケット、飲食・物産コーナーやステージイベントなど盛りだくさんで昔懐かしい雰囲気を感じながら、長岡の歴史や文化を楽しく学ぶことができるイベントを行う。

事業の成果等

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、例年大手通りで開催している越後長岡時代行列等のイベントは中止とした。

代替として、中心商店街に協力してもらい、先人パネルの展示や先人カードの配布、スタンプラリー抽選会などを実施した。また、先人の偉業をたたえる花火の打ち上げなども行った。

人が密集しないよう、例年と大きく内容を変えて実施したが、実施期間を長く設けたことにより、これまで米百俵まつりを知らなかった人にもイベントを認知してもらうことができた。

開催期日：令和2年10月3日（土）～11月23日（月・祝）



▲令和2年度米百俵まつり開会式の様子

地域観光事業（越後長岡6大冬まつり）

事業の概要

長岡市内で開催される6つの冬まつりを「つながる！越後長岡6大冬まつり」として一体的に広報し、事業を連携させて実施することで、長岡市全体の冬の誘客を促進し、各地域イベントの特色の周知と魅力アップを図る。

※越後長岡6大冬まつり

長岡雪しか祭り、越路スノーフェスティバル、古志の火まつり、おぐに雪まつり、とちお遊雪まつり、雪洞火ぼたる祭

事業の成果等

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、長岡雪しか祭り以外の冬まつりは中止とした。これに伴い、例年実施している6大冬まつりのスタンプラリーも中止した。

長岡雪しか祭りは、入場制限や検温などの感染防止対策をしっかりと行い、開催した。

積雪も多く、天候にも恵まれ、多くの家族連れが来場し、子どもたちに長岡の冬を思いっきり楽しんでもらうイベントを開催することができた。

開催期日：令和2年2月20日（土）～21日（日）

会場：ハイブ長岡・千秋が原ふるさとの森

来場者数：15,000人



▲雪山滑り台



▲雪花火と雪あかり

地域観光事業（こうじの祭典）

事業の概要

長岡の発酵醸造文化のコンセプトを具現化し、長岡の発酵・醸造を市内外へ発信するとともに、市内の機運を高める。

①機運醸成事業

- ・HAKKOtripを開催し、発酵を体感・体験する機会を創出する。
- ・市民に向けて発酵による暮らしの豊かさを普及啓発することで、対外的な発信の基盤をつくる。

②プロモーション事業

- ・発酵的なまちづくりに向けて、関係する人とのネットワークを作りながらワークショップ等を開催。

事業の成果等

①機運醸成事業

・HAKKOtripの開催

感染対策を徹底しながら、体験や学びなども含めた多様な発酵を楽しむイベントを実施した。（来場者数：2,000人）

日時：2020年11月21日（土） 会場：アオーレ長岡／摂田屋

・味噌醤油を食べようプロジェクト

地元の味噌醤油を子どもたちに知ってもらう目的で地元飲食店と連携したイベントやキャンペーンを実施した。道の駅で実施したイベント来場者：182名

②プロモーション事業

発酵的なまちづくりについて、発信するためのパンフレットデータを作成した。



▲HAKKOtrip

地域観光事業（摂田屋地区情報発信交流施設管理運営）

事業の概要

旧機那サフラン酒製造本舗は、摂田屋地区の約10,000㎡の敷地内に所在し、国の登録有形文化財に指定されている10棟の歴史的建造物等で構成されている。

長岡市は本施設を、醸造の町「摂田屋」が持つ歴史的背景や風土を軸に、長岡市の魅力を創造・発信する施設として整備するため、平成30年3月に土地を、同年5月に建造物を取得した。

本施設の歴史的建造物は、老朽化等による大規模な修繕が必要な状況であったため、令和元年度から段階的に整備を行っている。

令和2年度からは、施設全体の管理運営を民間会社に委託し、10月に整備が完了した「米蔵」を中心に、醸造の町「摂田屋」の魅力を次世代に引き継ぎ、全国に発信する情報発信・交流の拠点として、観光誘客を図っている。

事業の成果等

昨年10月に「米蔵」が整備・オープンした後は、発酵食品や地元食品を活かすなど、摂田屋ならではの飲食や特産品などの魅力を発信・提供し、従来の来訪者に加え新たな客層（若い女性）が大幅に増加するなど、新たな観光誘客につながった。

○令和2年度入込客数

- ・合計：18,360人　・月平均：1,530人
- ・「米蔵」オープン後（10月以降）月平均：2,569人



▲整備が完了した「米蔵」

地域観光事業（周遊促進事業）

事業の概要

令和2年9月に道の駅「ながおか花火館」が、10月に情報発信・交流拠点「旧機那サフラン酒製造本舗 米蔵」が新たにオープンした。新規オープンに伴う来訪者増を見込み、これを契機とした市内全域への周遊促進を目的に、令和2年度にスタンプラリーを実施。周遊による経済活動の活性化だけでなく、各地域の魅力や楽しみ方を発信し再訪につなげることも目的とした。

合併地域を含む市内11地域で、計20カ所にスタンプを設置。賞品も、各地域の特産品をPRできるよう選定した。また、スタンプラリーは、観光政策の検討のためにデータ収集が可能であり、感染対策のために非接触で参加できるように、スマートフォンでスタンプを集めるデジタル方式で行った。

事業の成果等

新型コロナウイルス感染症の拡大や年末年始の大雪の影響で外出困難な時期があり、参加者数は伸び悩んだが、参加者からは「今まで知らなかった観光スポットを知るきっかけとなった」「その後も繰り返し利用している」などの声もあり、一定の効果が見られた。

○開催期間：令和2年11月1日(日)～令和3年1月31日(日)

○スタンプラリー参加者数：764人

※アンケート実施結果より、市内64%、市外36%の参加者があり、一定数市外からの誘客・周遊効果が見られた。

○アクセス数（スタンプ数）：2,791回



▲スタンプラリーの様子

地域観光事業（巴ヶ丘一帯観光基盤整備）

事業の概要

近年増加している観光客に対応するため、長岡市もみじ園内に「越路もみじの茶屋(仮称)」を整備する。

施設を恒常的に設置することで、年間を通じて多様な活動が可能になり、地域経済への波及効果と交流人口の拡大が期待される。

- 令和元年度 10月、越路もみじの茶屋をプレオープン
- 令和2年度 指定管理者による管理運営を開始



▲もみじの茶屋 外観

事業の成果等

越路もみじの茶屋施設外構工事を実施。これにより、巴ヶ丘一帯観光基盤整備は完了したものの。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、茶屋の営業を5月まで休業し、6月から土日のみ営業し、7月から本格的に営業を開始した。

「和Cafe」という喫茶コーナーが好評で、利用者も徐々に増え、観光情報発信拠点としてだけでなく、市民活動や憩いの場としての効果も期待できる。

令和2年度
越路もみじの茶屋利用者数
(冬期間閉鎖)

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (人)
289	491	684	712	1,517	10,542	69	14,304

伝統文化資源事業（錦鯉ブランド推進）

事業の概要

錦鯉の発祥の地、日本農業遺産認定地という強みを活かしたプロモーションを小千谷市、関係団体と連携して展開し、国内外に点在し始めた他産地との産地間競争、更なる当地産錦鯉のブランド認知度向上に挑むと同時に、「中山間地域型産業振興モデル」の基礎作りを支援し、当地の地域及び産業振興に寄与する事業を展開する。

①ブランド力の強化

地域と連携し、日本農業遺産アクションプランを遂行

②販路の拡大

国内外の大型イベントでの錦鯉の展示PR、錦鯉発祥の地認知度向上、生産環境向上に向けた支援

事業の成果等

錦鯉夏季緊急出荷支援事業の効果もあり、コロナ禍である令和2年においても錦鯉出荷は好調。出荷量169,567kg（前年比12,530kg増）、出荷金額2,321,286千円（前年比540,225千円増）

令和元年 出荷量157,037kg、出荷金額1,781,061千円

令和2年 出荷量169,567kg、出荷金額2,321,286千円

長岡駅構内ややまこし復興交流館おらたるに錦鯉水槽を設置し、市民をはじめ当市を訪れる方々に、錦鯉の魅力を発信することができた。



▲錦鯉夏季緊急出荷支援事業による高温対策を施した出荷箱

伝統文化資源事業（地域の宝磨き上げ事業）

事業の概要

錦鯉、牛の角突き、大凧合戦などの伝統文化資源を活用し、次世代への継承や観光による外需から新たな産業化・雇用創出の好循環を実現し、人口減少に歯止めをかけます。

①山古志の棚田・棚池（山古志地域の宝磨き上げ事業）

アフターコロナを見据えたPR動画・冊子の制作・情報発信の強化、大学と連携した地域づくりイベント

②大凧合戦（中之島地域の宝磨き上げ事業）

大凧の作成、揚げ体験、展示による次世代への継承

事業の成果等

①地域の宝のPR動画・冊子の制作の取材等を通して、地域への想いを再確認し、次世代へつなげていく誇りを獲得できた。また、大学と連携し学生向けに養鯉業体験などの地域づくりイベントを企画・実施したことで、地域全体を活かしたブランディングを行えたほか、引き続きかかわってもらえる人材の獲得につながった。

②新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、大凧合戦が中止されたが、地域内の小学校等による大凧作成、揚げ体験、展示を行い、児童・保護者等多くの住民が大凧に触れ、身近に感じてもらうことで地域の宝を再認識してもらう契機となった。また、活動団体と地域住民が協働することで、新たな交流が生まれ地域全体で大凧を盛り上げようという機運が以前より高まっている。



▲大凧合戦

インバウンド推進事業

事業の概要

訪日外国人旅行者数は2018年に3,119万人を突破し、令和元年度には新潟空港へ海外路線の新規就航が相次ぎ、今後さらに新潟を玄関口として利用する外国人旅行者が見込まれる。この好機にプロモーションと受入体制整備を強力に推進することで当市を訪れる外国人旅行者数の拡大を目指すもの。

①多言語での長岡市観光プロモーション動画の作成

②観光情報多言語化事業（QRコード読み取りによる看板、説明板等の多言語表示化事業）

⇒観光施設等にある既存看板、説明板にQRコードを貼付し、スマートフォンで読み取ると所持者の設定言語に翻訳されたテキストが画面に表示され、音声でも案内するもの。

事業の成果等

①こだわり抜いたロケーション撮影やドローンをはじめとする最新機器を駆使した美しい映像など、質の高い動画を制作することができた。【R3.3.30YouTube公開／R3.7.27現在：（日本語）11,277回再生】

YouTubeで公開された動画が在ボストン総領事館の職員目に留まり、領事館来訪者向けのビジョンで放映されることとなった。

②日・英・中（繁・簡）・韓・仏・伊・露・独・スペイン・ベトナム・タイ・インドネシア・マレーシアの全15か国語対応。摂田屋（2か所／コード）、河井継之助記念館（2か所／コード）、アオーレ長岡（シアター）、悠久山公園、郷土史料館、トキと自然の学習館、長谷川邸、戦災資料館の全10か所＋トップページ＋モデルコースページの全12コード整備。

【R3.3.31整備完了／R3.6末までの実績：340ページビュー】



▲既存看板にQRコードを貼付した様子

地域資源観光プロモーション事業

事業の概要

長岡市の重要資源である「長岡花火、食、日本酒、錦鯉」を活用し、広くPRすることで、長岡の認知度とイメージ向上を目指す。

①シティプロモーションWebメディア「な！ナガオカ」の運営

首都圏の20代～40代をターゲットとした長岡の情報の記事化、蓄積とSNSを活用した情報の発信

②「発酵醸造のまち長岡」の国内外へのPR

発酵醸造のまち長岡をPRするためのWebサイトの運営、台湾インフルエンサーを長岡へ招聘し地域資源を取材、台湾向けにWeb、SNSで情報を発信

事業の成果等

①シティプロモーションWebメディア「な！ナガオカ」及びSNSを活用し、市内外へ長岡の魅力発信を行い、認知度・好感度の向上、移住定住・交流人口の拡大に取り組んだ。

- ・Webサイト ページセッション数 533,878 (R1 506,998)
- ・フォロワー数 Facebook : 3,687人、Twitter : 1,135人、Instagram : 1,780人

②Webサイト「発酵醸造のまち長岡」のなかで発酵に関連するイベント情報等を発信した。

- ・Webサイト ページセッション数24,131 (R1 8,873)



▲Webメディア「な！ナガオカ」

地方創生推進交付金②

事業名

「NaDeC構想（4大学1高専連携プラットフォーム）による産業創出と人材育成」

※地方創生推進交付金

「地方版総合戦略」に位置付けられ、地域再生法に基づき認定される地域再生計画に記載される地方公共団体の自主的・主体的な取組で、先導的なものを国が支援するもの。

NaDeC構想（4大学1高専連携プラットフォーム）による産業創出と人材育成

事業概要

4大学1高専と商工会議所、市が連携し、大学や高専が持つ知見と市内企業が持つ技術を融合させ、新製品・新産業の創出やベンチャー企業の育成を進める「長岡版イノベーション」の実現を目指す「NaDeC構想」に基づく産業振興・人材育成事業を行う。個別事業の内容については、次項以降を参照。【事業期間：令和元年度～令和5年度】

重要業績評価指標（KPI）

指標		事業開始前	R1増加分	R2増加分	R3増加分	R4増加分	R5増加分
支援事業を通じた起業者数	目標		37人	38人	39人	40人	41人
	実績	0人	33人	40人	-	-	-
4大学1高専卒業生の地元就職率	目標		1.31%	1.31%	1.31%	1.31%	1.31%
	実績	8.40%	0.41%	△0.51%	-	-	-
支援事業（イノベーション・ハブ、産学金連携補助金、3大学1高専ワンポイント補助金等）により産学連携に取り組む企業数	目標		10社	10社	10社	10社	10社
	実績	0社	10社	18社	-	-	-
産学連携活動（イノベーションハブ・課題解決型インターンシップ等）により解決策を提示できた課題数	目標		5件	10件	10件	10件	10件
	実績	0件	9件	17件	-	-	-

事業費及び交付金額（R1～R2）

総事業費：229,453,182円

交付金額：114,726,591円

産業イノベーション推進事業

事業の概要

変化の大きい時代に柔軟に対応するため、地域を担う産業、人材づくりを地域全体で行う。

①イノベーションプロジェクトの実施

・「介護」「AI」「水」「発酵」の4分野で産学官のネットワークであるイノベーション・ハブを作り、課題を抽出・共有し、解決に向けた試作品の開発・実装を行う。

・長岡市の特性（地域資源・産業・人材等）を活用した持続可能な新しい産業を創出することを目指し、長岡技大、国の産業技術総合研究所と共同でバイオエコノミーシンポジウムを開催。

②人材育成・普及啓発

・市内大学・高専で企業の課題解決を行うNaDeC課題解決型プログラムを実施。

事業の成果等

①【介護】4つのワーキンググループを設置。改良したリフトの開発、音声入力アプリの実証実験、持ち物確認システムの開発、災害対応に関するヒアリングの実施

【AI】セミナー「ディープラーニングのための画像取得と画像処理の基礎・入門」

基礎：9月10日開催 受講者54名 入門1月20日開催 受講者6名

セミナー「ビジネスのためのAI・IT・IoT活用セミナー～サービス業、金融業、製造業での事例紹介」

開催日12月14日 事例紹介市内7企業 受講者56名

【水】総会・勉強会の開催（7月10日）

参加者：企業、大学・高専、研究機関及び行政の関係者 約40名

養鯉場の水質改善に係る実証実験、成果発表（3月26日 水・発酵の合同開催）

【発酵】キックオフミーティングの開催（11月17日）

参加者：企業、大学・高専、研究機関及び行政の関係者 約40名

②NaDeC課題解決型プログラム 期間8月24日～8月28日（後掲）



▲ NaDeC課題解決型プログラムの様子

起業・創業支援事業

事業の概要

長岡市における起業・創業を支援し、魅力ある企業の創出を通して地域経済の活性化を図る。

- ①学生起業家育成事業：CLIP長岡（起業支援センター）、長岡商工会議所、市内金融機関、市で組織する創業応援ネットワークによる学生起業家育成補助金の交付や起業機運醸成の講演会等の実施。
- ②リーンローンチパッドプログラム：シリコンバレー発祥の実践的起業講座。
- ③起業・創業無料相談等：CLIP長岡による相談受付、起業関係講演会・セミナー、メンタリング等の実施。
- ④NaDeC課題解決型プログラム（再掲）：長岡高専の授業「JSCOOP」（ジェイスクープ）に市内大学の学生がTA（ティーチングアシスタント）として参加。地域企業の技術的課題や社会課題の解決策を提案し、アントレプレナーシップを養う。市は事業費を補助。

事業の成果等

- ①学生起業家育成補助金（補助率10/10、上限50万円）：5件
スタートアップ創出補助金（補助率2/3、上限50万円）：2件
有望スタートアップ育成補助金（補助率10/10、上限150万円）：3件
- ②期間：5月23日（土）～8月9日（日）
参加者：20人・6チーム（技大3チーム、高専3チーム）※うち1社が起業
- ③CLIP長岡 R2年度起業相談件数：277件 起業実現数：40件
起業塾：2回・9人、起業講演会：5回・119人 等
- ④期間：8月24日（月）～8月28日（金） 各日9:00～17:00
受講者：209人（高専4年、34チーム）
TA：20人（技大6人、高専専攻科4人、東北大1人、(株)プロッセル9人）



▲R2年度 リーンローンチパッドプログラム DEMODAYの様子

NaDeC構想先行実施関連事業

事業の概要

産学官の共同体と活動の場を創設・運営し、産学官が連携した活動を推進する。

①NaDeC BASE施設運営

オープンラボスペース、コワーキングスペース、ものづくり工房を運営。工房機器の利用者講習会も開催。

②NaDeC構想推進コンソーシアムの活動

市内4大学1高専、長岡商工会議所と長岡市でコンソーシアムを形成。産学官連携で次代を担う人材・起業家の育成、新しい価値を創造する協働・交流、産業創出に資する各種プログラムを実施。

事業の成果等

①NaDeCBASEの移転、改修を行い令和2年9月にリニューアルオープン 利用者（R2.9～R3.3）

人数 3,354名 件数 441件

ものづくり工房機器安全利用講習会（レーザーカッター・3Dプリンター）

各7回開催、138名参加

②ワーキンググループ（産学協創、起業支援、就職・インターンシップ、授業連携）の事業

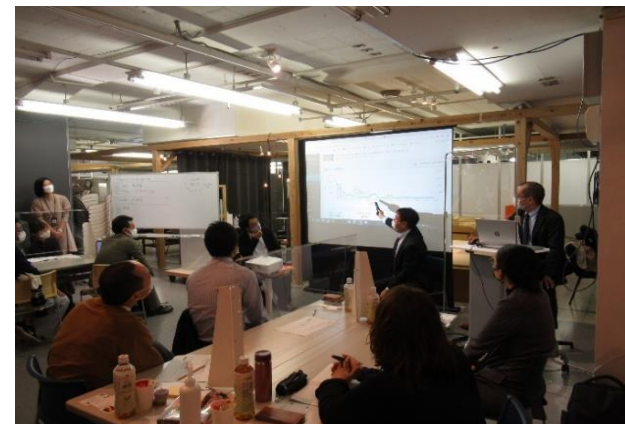
・起業支援プログラム「リーンローンチパッド」の実施

5月23日～8月9日（先掲）

・「長岡地域の上場企業・地方公共団体の魅力を知る」セミナー実施（2月9日）

・産学連携アンケートの実施 期間12月末～2月15日

・4大学1高専単位互換制度の協定締結 3月24日



▲経営課題解決ワークショップの様子

インターンシップ推進事業

事業の概要

県内外の学生が長岡でインターンシップに参加できるよう、受入企業の拡大と積極的な情報発信を図る。
また、学生のニーズに合わせた多様なインターンシッププログラム作成支援を行う。

【インターンシップガイダンスの開催】

インターンシップの受入れを行う企業が、学生に企業概要やインターンシップの内容を説明する。

事業の成果等

業界研究・インターンシップガイダンス

	対面式
実施日	R2.12.14
実施場所等	アオーレ長岡
参加者数	企業46社、学生225人

新型コロナウイルス感染症の対策として、万全な感染症対策を行ったうえで対面式イベントを開催し、コロナ禍であっても企業と学生の接点づくりができた。イベントの参加者数は過去最高となった。



▲ガイダンスの様子

地元就職・UIターン支援事業

事業の概要

学生や大学と企業との接点を増やすとともに、市内外へ向けて長岡の企業や就職情報を発信し、UIターン就職の促進を図る。

①地元就職・U・Iターン支援事業

主に大学生や高専生、専門学校生を中心とした、就活支援事業。首都圏在名の社会人向けの相談会も実施。

②U・Iターンポータルサイト運営事業

UIターンに特化したポータルサイトを活用し、社会人や学生に向けた情報発信を実施。

③地元定着支援事業

主に高校生を対象とした地元企業との接点づくりを実施。

事業の成果等

	就職ガイダンス（大学専門学校等）		高校生企業フェス
	対面式	オンライン形式	対面式
実施日	R3.3.15～16	R3.3.17～20	R3.2.2
実施場所等	アオーレ長岡	ZOOM開催	アオーレ長岡
参加者数	企業116社 学生228人	企業73社 学生140人	企業58社 学生581人

コロナ禍での貴重な対面式のイベントとなり、学生からも企業からも好評を得た。また、ガイダンスはオンラインでも開催し、県外の学生が企業と繋がる機会を創出できた。



▲就職ガイダンスの様子

地域技術高度化促進事業

事業の概要

地域産業の活性化を図るため、新技術や新製品の研究開発等に対する補助金を設け、地域産業の技術の高度化と製品の高付加価値化を図る。

- ①ものづくり未来支援補助金：製品の技術高度化や高付加価値化に向けた開発支援
補助率:1/2（ベンチャー・産学金は2/3）、上限額:200万円
- ②ブランド化支援補助金：開発した製品の市場投入支援
補助率:1/2、上限額:50万円
- ③IT・IoT設備投資支援補助金：生産性向上を目的としたIT・IoTの活用を支援
補助率:2/3、上限額:100万円

事業の成果等

- ①ものづくり未来支援補助金
技術・製品の高付加価値化に関する取組みとして、9件12,820,000円の支援を行った。

(株)大菱計器製作所、日本メディカルオーダー(株)、(株)ソリマチ技研 ほか

- ②ブランド化支援補助金
市場投入する製品の改良に関する取組みとして、2件1,000,000円の支援を行った。

(株)長岡計器、(株)ワイ・エム・ケー長岡

- ③IT・IoT設備投資支援補助金
生産性向上に向けた取組みとして、11件14,000,000円の支援を行った。
東海鉄工所(株)、(株)トクサイ、(株)丸菱電子 ほか



▲ イットリア複合酸化膜による立体物への均質な成膜方法の確立

産業活性化推進事業

事業の概要

生産性の向上や産学・企業連携の推進により、地域の優れたものづくりの技術力をさらに強化するとともに、地域ブランドの発信により、販路や受注の拡大を図る。

- ①ものづくり現場力向上支援事業：生産性向上に向けた人材育成及び改善活動の促進
- ②NAZEものづくり産業改革支援事業補助金：地域企業の連携組織・長岡産業活性化協会NAZEの支援
- ③4大学1高専ワンポイント活用事業補助金：産学連携による企業の課題解決の促進
補助率:2/3、上限額:100万円
- ④受注促進事業補助金：販路開拓や受注拡大の促進

事業の成果等

- ①ものづくり現場力向上支援事業
コロナ禍の事業継続体制の構築に向け、のべ20社のリモート環境整備を支援した。
- ②NAZEものづくり産業改革支援事業補助金
会員84社の技術高度化、人材育成、情報発信の取組みを支援した。
- ③4大学1高専ワンポイント活用事業補助金
課題解決のため学術機関と初めて連携事業を行う企業に対して、4件3,660,000円の支援を行った。
柏露酒造(株)、長岡電子(株) ほか 【NaDeC構想全体における重要指標】
- ④受注促進事業補助金
コロナ禍での販路開拓の手法として、「Webを活用した販路開拓セミナー」を開催して17社が参加した。



▲リモート会議サポート講習会

ものづくり未来人材育成支援事業

事業の概要

地場産業の魅力を次世代に伝えるとともに、地域に先端産業が根付き、イノベーションに発展する契機とするため、ものづくりの先端技術のPRを図る。

- ①ものづくりフェアの開催
子どもたちや市民向けのものづくり体験機会の提供
- ②ものづくり紹介冊子製作
ものづくり企業の魅力を伝えるPR冊子の作製
- ③ロボットイノベーション事業
地域を挙げたロボットの研究開発・産業化の推進

事業の成果等

- ①ものづくりフェアオンラインの開催
73社の市内企業紹介動画を公開し、フェア期間中で2,400アクセスがあった。
- ②ものづくり紹介冊子製作
造形大学と共同で冊子を制作し、市内小学生5年生全員をはじめ小中学校、図書館等に4,500部を配布した。
- ③ロボットイノベーション事業
地域におけるロボット導入を促進する取組みとして、2社のモデル実証を行った。



▲ものづくりフェアオンラインの開催

IoT導入支援事業

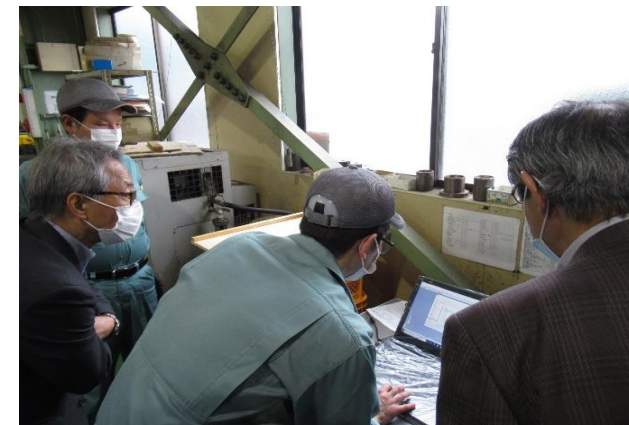
事業の概要

市内企業におけるIoT導入やIoTに精通した人材の育成を支援し、企業の抱える課題を解決するとともに、「長岡版イノベーション」モデルの創出を図る。

- ①長岡市IoT推進ラボ（市内の4大学1高専や製造業の業界団体がIoT導入促進に向け活動する団体）
IoT導入にかかる普及啓発や人材育成
- ②企業連携コーディネーター
IoT導入に向けた個別相談の対応

事業の成果等

- ①長岡市IoT推進ラボ
企業のIoT導入に向け、14件の導入個別相談と3件のモデル実証を行った。
- ②企業連携コーディネーター
企業のIoT導入に向け、上記①の相談員として14件の相談に対応した。



▲個別相談の様子

地方創生推進交付金③

事業名

「高度外国人材を活かした未来産業創出システムの構築」

※地方創生推進交付金

「地方版総合戦略」に位置付けられ、地域再生法に基づき認定される地域再生計画に記載される地方公共団体の自主的・主体的な取組で、先導的なものを国が支援するもの。

高度外国人材を活かした未来産業創出システムの構築

事業概要

高度な技術を学ぶ留学生の市内企業への就職を促進するとともに、海外大学で学ぶ留学生のインターンシップの受入や高度な技術を持つ外国人材が活躍できる環境の整備を行い、地域中核企業の創出と多様な人材が活躍するダイバーシティを目指す。また、外国人材活用支援アドバイザーを雇用し、外国人材の受け入れ課題を洗い出し、課題を解決する支援策を検討する。個別事業の内容については、次項以降を参照。【事業期間：令和2年度～令和6年度】

重要業績評価指標（KPI）

指標		事業開始前	R2増加分	R3増加分	R4増加分	R5増加分	R6増加分
外国人材の市内の雇用者数	目標		100人	100人	100人	100人	100人
	実績	1,554人	401人	-	-	-	-
市内企業の留学生インターンシップ受入人数	目標		10人	10人	10人	10人	10人
	実績	0人	4人	-	-	-	-
地域経済牽引事業計画認定企業数	目標		4社	4社	5社	5社	5社
	実績	17社	3社	-	-	-	-
日本語講座受講者数	目標		30人	30人	30人	30人	30人
	実績	1,100人	56人	-	-	-	-

事業費及び交付金額（R2）

総事業費：9,116,819円

交付金額：4,558,409円

外国人材受入環境整備事業

事業の概要

外国人材の活躍による市内企業のグローバル化を支援するため、専門技能・技術を持つ外国人材を受け入れる環境の整備や、受入企業の社内体制の整備などを支援する。

- ①外国人材活用支援アドバイザーによる企業ヒアリングの実施
- ②留学生と市内企業との交流会の開催
- ③国際行政書士による在留資格手続きのサポート

事業の成果等

- ・令和2年度より、外国人材支援アドバイザーを任用し、アドバイザーによる企業と留学生のインターンシップのマッチングに取り組み、市内企業1社で外国人材のインターンシップ受け入れにつなげることができた。
- ・企業が外国人材受け入れの際に課題と感じている「在留資格」手続きについて、国際行政書士による相談や資料作成の手続きサポートを開始し、企業の外国人材受入環境整備に寄与することができた。
- ・留学生と企業とのオンライン交流会では、留学生12名と企業3社が参加し、意見交換のほか留学生のスピーチや企業紹介などで交流を深めた。留学生が市内企業について知るきっかけの場を提供することができた。



▲ 留学生と企業との交流会

商業団体等支援事業

事業の概要

地域企業の外国人材の確保や海外販路の拡大を目的として、長岡商工会議所や商工会等の商工団体が、地域の実情に応じて創意工夫を持って行う取り組みに対して補助金を交付し支援するもの。

〈がんばる地域企業育成支援補助金グローバル企業育成枠〉

- ・ 補助対象事業：外国人材の確保に係る事業、海外販路拡大のための市場調査や人材マッチング等（補助率 3 / 4）

事業の成果等

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により実績なし

国際経済・技術交流促進事業

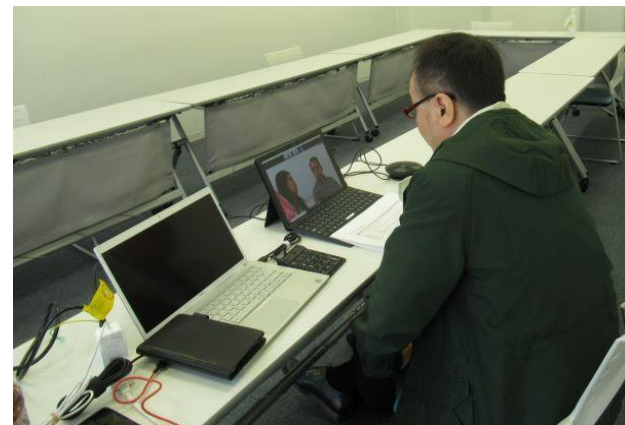
事業の概要

長岡国際ビジネス研究会が実施する、海外取引に関するセミナーや海外販路開拓支援等の各種事業を支援することで、市内企業の海外展開マインドの醸成と海外ビジネスに必要な情報提供を行い、海外ビジネスのきっかけ作りに寄与する。

事業の成果等

市内企業の海外展開の取組みを促進する事業を実施した。

- ・ 海外経済情勢等の啓発セミナーなどを含む、3回の定例会を実施した。
- ・ 海外バイヤーとのオンライン商談会を3月に初開催し、参加企業4社・のべ15件の商談を行った。



▲ オンライン商談会の様子

国際交流センター事業

事業の概要

外国人が不慣れな地で暮らす生活環境を整え、支援情報を理解できる言語を提供することにより、孤立化を防ぎ、地域や企業への定着を図る。

①国際交流センター運営職員（多文化共生推進担当）

生活相談のほか、情報誌やFM等での多言語による情報発信、交流会の企画などの顔の見える関係づくりを行う。

②多言語対応情報発信

日本語情報誌を10言語に翻訳可能な多言語情報配信ツールの導入

③やさしい日本語講座

日本語に不慣れな外国人にもわかるような日本語の使い方を学ぶ講座の開催

④留学生地域理解プログラム

長岡に愛着を持ち、就職等による定着促進を図るための市内ツアーの開催

事業の成果等

生活相談では、日本語学習に関する相談を中心に371件の相談があり、生活環境を整えるサポートや不安感の解消につながった。また、多言語情報配信ツールを令和2年6月より導入し、広報誌等を配信した。延べ1,752件の閲覧があり、情報の入手手段の1つとして活用した。

やさしい日本語講座では42名の参加があり、外国人とのコミュニケーション方法の周知を行うことができた。地域理解プログラムとして開催した「長岡探訪ツアー」では、留学生と高校生とが、市内の観光地や産業地を一緒に見学し、長岡に愛着を持ってもらうような事業となったほか、高校生との交流のなかで顔の見える関係づくりを行うことができた。



▲長岡花火を学ぶ高校生と留学生

多文化共生事業

事業の概要

市民が外国人に対する理解を深めることにより多文化共生社会を構築し、ひいては、多くの外国人および日本人に選ば
れる地域となるような、グローバルで魅力ある長岡市への推進を図る。

●世界が先生-国際人育成事業-

小中学校が行う課外授業やコミュニティセンターに留学生や外国人市民を派遣し、母国などの文化紹介を行う。

事業の成果等

世界が先生を15回実施し、延べ17名の留学生講師の派遣を行った。

参加した児童生徒・地域住民は325人で、子どもを中心に参加があり、「留
学生の出身国について知ることができてよかった。行ってみたいと感じた。」「日本
と同じような部分もあり、身近に感じることができた」等、異文化理解を推進す
ることができた。

留学生にとっても、長岡の文化を学ぶ等、多文化共生の推進につなげること
ができた。



▲自国について紹介をする留学生

外国人雇用拡大・海外販路開拓向け新現役交流会事業

事業の概要

市内事業者の外国人材の確保と海外販路の開拓を推進するため、関東経済産業局の「新現役交流会事業」を活用して、グローバル化を目指す事業者と、ノウハウを持った大企業等のOB人材とのマッチングの場を創出するもの。

〈新現役交流会〉

・関東経済産業局が所有するマネジメントメンターデータベースに登録している、豊富な実務経験や専門知識を持つ企業OB（新現役）と、課題を抱える地域の企業とのマッチングを行うもの。主として対面方式で実施される。

〈長岡市が実施予定だった交流会について〉

- ・外国人材雇用等、テーマを絞った交流会の開催は、関東経済産業局でも初めての試みであった。
- ・実際は金融機関が顧客サービスの一環として実施することがほとんどだが、地方自治体が主催するのは2例目であった。

事業の成果等

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により実績なし

地方創生拠点整備交付金

※地方創生拠点整備交付金

「地方版総合戦略」に位置付けられ、地域再生法に基づき認定される地域再生計画に記載される地方公共団体の自主的・主体的な取組で、特に先導的な事業に必要な施設整備等であって、複数年度にわたるものを国が支援するもの。

やまこし復興交流館おらたる整備事業①

事業概要

中越大震災メモリアル施設「やまこし復興交流館おらたる」は、震災で体験したことや復興に向けて積み重ねた経験を後世に伝え、地域の魅力を全国に向け情報発信するため、昭和59年に整備された旧村民会館をリニューアルした施設であり、全国からの視察者や地域住民など年間3万人を超える来館がある。

当施設2階には、100人規模の大ホールや調理室、震災展示室などがあり、施設を効率的に利用するためのエレベーター等を設け、更なる地域の活性化を推進する拠点として整備する。

【事業実施年度：平成29年度】

重要業績評価指標（KPI）

指標	H28	H29	H30	R1	R2
やまこし復興交流館おらたるにおける年間売上額※	0千円	0千円	143千円	229千円	662千円
やまこし復興交流館おらたる年間来館者数	31,656人	30,288人	33,941人	39,076人	25,372人

※交付金により整備した調理室で調理・販売したもの（仕入れ弁当やキッチンカーは除く）

やまこし復興交流館おらたる整備事業②

事業の成果

- ✓ バリアフリー化を図ったことにより、車椅子や足・腰に不安のある方、高齢者などが積極的に利用している。
- ✓ 視察者へのランチ提供や地域内への弁当配送、地域外へのキッチンカー販売、地域住民が生産した野菜の集荷・加工・直売など新たな収益事業がエレベーターを通して試行されている。

整備前



▲おらたる全景



▲人力での車椅子利用者の移動

整備後



▲整備されたスロープ



▲介護者の利用



▲1階エレベーター



▲2階エレベーター

地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）

※地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）

国が認定した地方公共団体の地方創生の取り組みに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除するもの。

令和2年度から制度が大幅に見直しされ、寄附を行った場合、最大で寄附額の9割が軽減される。

長岡市まち・ひと・しごと創生事業

事業概要

長岡市の将来を実際に担っていく「若者」を地方創生の主役に据え、長岡に住み続ける「若者」、戻ってくる「若者」、新たに移住してくる「若者」をしっかりと確保し、愛着と誇りの持てる「ふるさと長岡」をつくる取り組みを行う。併せて、高齢者が元気に暮らしていけるための取組を継続して行う。

令和2年度寄附実績

寄附を受けた事業	寄附を活用した事業の内容	事業費 (千円)	寄附額 (千円)
頑張る地元企業・地場産業の支援に加え、起業・創業や企業誘致を産官学金の総合力で推進する事業（戦略4 働く）	市内の税理士や中小企業診断士、金融機関などの支援機関とともに発足した「ながおか事業承継応援ワーキング会議」を軸に事業承継促進を目的とした事業を実施。	314	100
頑張る地元企業・地場産業の支援に加え、起業・創業や企業誘致を産官学金の総合力で推進する事業（戦略4 働く）	留学生の市内企業への就職を促進するとともに、海外大学で学ぶ留学生のインターンシップの受入や高度な技術を持つ外国人人材が活躍できる環境を整備。	17,127	10,000
将来にわたって住み続けたいと思えるような、誰もが充実し、安心して暮らすことのできる、安全で快適なまちづくりを進める事業（戦略6 安全安心）	パラスポーツで使用するスポーツ用車いすを市内体育館に配備。市民に貸出を行うとともに、市のパラスポーツ体験会で活用し、パラスポーツ普及を推進する。	750	500
頑張る地元企業・地場産業の支援に加え、起業・創業や企業誘致を産官学金の総合力で推進する事業（戦略4 働く）	大学や高専が持つ知見と市内企業が持つ技術を融合させ、新製品・新産業の創出やベンチャー企業の育成を進めるNaDeC構想に基づく産業振興・人材育成事業を実施。	113,096	1,000